

① グリーンインフラの推進

既存インフラである里山を活かす

● 里山整備を通じた循環

- ▶ 地元産材の利用促進（住宅用建材、インクルーシブ公園の遊具、子どものおもちゃなど）

● 里山文化の活用

- ▶ 若手農家との連携による情報発信、交流の場づくり
- ▶ 里山の仕組みを専門的に学ぶ取組み

● 里山を観光資源と捉え県外にPR

民間が行う地元産材を活用した什器整備等に対する補助制度の創設

教育や保育の一環として、里山整備に子どもや市民が参加できる仕組みづくり

まちなかでの取組み

● 緑や自然を感じながら休める場所・緑陰の整備

- ▶ 「意図のあるベンチ」の設置
- ▶ 空き家やオープンガーデンの活用を検討

● 個店などがそれぞれ店先にプランターを設置

- ▶ お店で使える野菜やハーブ、花などを無農薬で育てる

ウォーキングマップや井戸巡りマップなどの他の情報とリンクさせて、エリア単位で活用・情報発信

賑わいや市のPRにつながるスポットの創出

市民が関わるができる場

自然への理解を深めることができる取組み

持続可能性を高める仕組みづくり

● 市民が楽しみながら管理できるしくみの構築

- ▶ 景観コンテストなど

● 地元の学生やアクティブシニアなどの参画

自主的な管理やモチベーションアップなど、個々のマインド醸成につなげていくことが重要

「体験」を得られるインセンティブ

② サイクルツーリズムの推進

ターゲットに合わせた施策の推進

本格派層

- 高額な自転車を安心して保管できる置場の整備 ▶
- サイクトレインや自転車が乗せられるバスなど、既存交通インフラの活用
- 本格的なサイクルツーリズム需要への対応（サポートカーなど）

・ 民間による整備促進のための補助制度
・ 市有施設や空き家の活用 → 有料化も検討

一般・ ファミリー層

- 子どもや家族連れが気軽に楽しめるコースの整備 ▶
- シェアサイクルの充実

子どもをターゲットにした取組みにより、将来的な自転車人材の育成にもつなげる

インバウンド

- 交通ルールを含めた安全面が課題 ▶
- 普通の田舎暮らしを求める声への対応 ▶
- 案内サイン等の多言語化

日本の交通ルール等を学びながら観光できるツアーの造成

里山の暮らしを体験できるツアーの造成等、宿泊につながる取組み

その他の検討事項

- 市内外に向けた情報発信の強化 ▶

コースの周知、MTBファン層獲得、市民の機運醸成につながるプロモーション

- 新たな自転車レースやイベントの検討 ▶

山岳コースを活用した「ツール・ド・北アルプス」など。広域連携も視野

- 街道の移動は自転車、魅力的な路地が多いまちなかの移動は歩きという観光スタイルの確立

▶ 自転車施策を進めることで、「歩く」ことにつながる

- まずは地元の人が日常的に自転車を楽しむ土壌づくりが必要（日常があってこそその非日常）